

# 土曜講座をよみ

題字・末川 博立命館名義総長

創刊号

1976年9月25日発行

立命館大学人文科学研究所

(603)京都市北区等持院北町

TEL・463-1131(内線223)

## 刊行にあたって

岩井忠熊

立命館大学は「国民のための大学」をめぐって教育・研究をすすめてきた。そのような方針には、大学や学問が国民から距離をとり、いわゆる「象牙の塔」にこもってしまったために、社会的責任をまっとうしえなかつた戦前の歴史に対する反省の意味がこのらに込められている。

土曜講座は、立命館大学の教學活動のほんの一部でしかない。しかし、熱心な聴講者の意見は立命館大学の教學にもけられた「国民の声」ともいふべきものであり、「国民のための大学」づくりそのぞきすものが真剣に耳をかたむけなければならぬと思う。土曜講座や大学に対する意見・注文だけでなく、聴講者同士の意見交換の場でもあってほしい。多様な聴講者たちとの間で深められた交流の内容は、もとより何よりも聴講者ご自身のものであるが、大学にとっても貴重な資料であり、教訓の素材なのである。(人文科学研究所所長)

## 10月土曜講座のご案内

〈特集〉 アダム・スミス『国富論』刊行200周年

- 2日 No.1467 スミスとその時代 ..... 相見志郎(同志社大教授)  
9日 No.1468 スミスの経済理論 ..... 上野俊樹(本学助教授)  
16日 No.1469 スミスと初期のマルクス ..... 岡崎栄松(本学教授)  
23日 No.1470 スミス経済学と近代経済学 ..... 濱崎正規(本学教授)

〈連続講座〉 現代日本の支配構造 (最終回)

- 30日 No.1471 現代日本の国家と法 ..... 天野和夫(本学教授)

※毎週土曜日午後2～4時 / 於・立命館大学広小路学舎有心館115号教室

# 聴講者の大場

8・9月アンケートの中なら僕  
んでみました。皆さんのご意見  
「感想」がよかったです。

●8月21日「イデオロギー支配とその権  
造」塚本三夫

具体的に現代の諸事件についてこのイ  
デオロギー支配がどの様に行われ、来  
たか(例・ロッキード事件)を話して  
下されば、もう少しよくなる。たとえ  
います。また、金融資本、財界に依存  
しなければならぬマスコミが本場の  
報道を抑えられる場面をまっと話して  
ほしかったです。(男・学生)

●8月28日「アメリカ建国の論理とその  
発展」田中豊昭

アメリカ建国の論理がマキャヒリス  
ムにちなんで展開されていくことが  
この帝国主義は最初からアメリカの理

論であると思つた。(男・学生)

素然と暮らしているアメリカ建国が、

そんな意味をもつていたのだから、目を  
開かされた気がした。それこそア  
メリカの支配力の強さを何となく感じ  
ていたので、はっきりした様に思ふこ  
ろだった。(主婦)

●9月4日「アメリカの民主主義と文学」  
伊藤堅二

現代アメリカ文学をみると、現代社  
会に對する幻滅とこのまじからの逃避  
という結論にたつておられる。確かに現代  
社会をどう見るかというところからい  
えば、お話を聞かされた感じが  
しました。そのお話を聞かされたな。

た。(女・他大生)

個別的な小説の紹介をもう少し省  
略なして、アメリカ近・現代史に  
おける民主主義の発展と文学の動向  
の連関をもっと煮つめて、また政治  
経済との関係をも話してほしまつた  
と思つた。(男・本学学生)

南北戦争以後の黒人の存在位置、  
歴史と文学のなやむが大変よくわ  
かりました。The House I Live in の  
song、わかりやすい評する力のあ  
る歌でした。(男・自営業)

差別問題の根深さ、有色人種と白  
色人種との関係を改めて書きました。こ  
の中からも文学の後目がたたくな  
らぬ世代を私たちが力で持続させ  
ねばならぬと思  
う。(主婦)

●9月10日「アメリカ強弁宣言と現代の  
国際政治」菊井禮次

「帝勢力を構成する諸要素間の関係  
が不明確で、戦後史の展開が又帝とい  
ふかの軸上にあるといふ点に注意  
してつらみませんとした。単に帝  
と云うだけでは、帝國主義の運動が反  
帝諸勢力それぞれなごの様なインパ  
クトを及ぼす、それが相対的につく  
るが不明確。(男・本島隆正)

世界に目を向けるまっかげがため  
に様々と思ひます。日頃、世界情勢に無  
関心な主婦として大変有義な講義  
でした。(主婦)

「社会思想」4月号をよめ読んで  
の感想として大変理解し易く、あ  
りだす思ひます。あつは、雑誌の  
ため、この年の講義の後半部分の理解

を綴つておきたいと思ひます。  
(女・民主団体役員)

●9月18日「最近のアメリカ企業動向」  
稻垣武

アメリカ企業の中に於ける黒人の動  
向を分析する意味、目的が明らかとな  
い。また日本の企業と我々の暮しとの  
関係も明らかにして欲しいと思ひま  
す。(男・公務員)

# 国富論について

上野俊樹

スミス (Adam Smith, 1723-1790)  
は、イギリス古典派経済学の建設者であ  
る。その名著『国富論』は、初版が1776  
年の出版であるから、今年が『国富  
論』出版二〇〇年と云ふことになり、こ

のことを記念して行なはれたい。経  
済学雑誌『国富論』とスミスが、二〇〇年

今日、初めて来ました。テーマも知  
らなかつたのですが、今回のテーマは  
私には少し難しすぎたようです。しか  
し、この様な講座は大変有効であり、  
これから大いに利用しようと思ひま  
す。(女・他大生)

70年代後半に早急な確立が望まれ  
る統一戦線、労働戦線統一、国民春  
斗のテーマを説きます。(男・公務員)

雑誌とスミス特集がおこなわれたリ  
ころで、これら二つは、経済学史家  
会編『国富論の成立』(岩波書店)が  
くわしい。

『国富論』とスミスが、二〇〇年  
経た現代において、かくも大々的に

りあげられるのは、何れも『国體論』が、資本主義成立期の激動する過渡的時代を科学的に体系的に分析したたけにほかならない。

『国體論』(その正式の名称は『諸國民の富の性質と原因に关する研究』)は、五篇からなり、オ一・オ二編は、分業論・価値論・賃銀論・蓄積論・利理論、世代論等の経済学的基础理論を取り扱っている。オ三編は、基礎理論が明らかになった富の自然的進歩(生産力の発展)を抑制する最大の原因としての封建的所有と封建的暴政とをとりあげ、それを批判し封建制解体の理由を述べている。オ四編は、現状分析に基づく政策・意識批判であり、最後のオ五編は、広義の財政論である。

一三二して構成をもつ『国體論』は、著

本主義の原理である剰余価値について感  
知しながらも、それを勞働価値論の基礎  
上で説明しなかつたという重大な欠陥  
をもちながらも、資本主義社会の経済的  
運動法則を科学的に分析したという不朽  
の業績を荷つていよう。

こつした意味で経済学を嗜び人々にと  
つては不可欠の古典となつてゐる。  
参考文献は、久留岡敏造・五野井芳郎  
共著の『経済学史』(岩波全書)の三三三  
ページの解説がもっともなじみやすい。

(経済学部助教授・経済学専攻)

## 「天皇制と民衆」(近刊)

昨年の連続講座が二冊の本になりました。  
天皇制研究の入門書として最適、

●後藤 靖編・東大出版会UP進書刊  
九〇〇円 四六判 一〇月下旬刊

## 編集後記



▼かねてから土曜講座と学生・市民を  
結び「たより」の刊行を検討いたして  
おりましたが、開設三〇年を契機に聴  
講者の間からも「受講者同の交流を深  
めたい」という声が高まり、事務局と  
しても思い切つて「たより」の刊行に  
踏みかゝることにしました。何分田人の  
スタッフでございまして心配です  
が、皆さんのご協力をお願いします。

▼土曜講座三〇年を祝して聴講者の方  
々からご寄付をいただきました。アン  
ケート箱、立看板、スタンド式表示板  
会場表示シートを購入させていただきました  
しましたのでお知らせいたします。

▼今年も「公費助成運動」が始まりま  
した。ご協力をお願いいたします。

受付  
13.18.00